

機関誌編集委員会(第6回)議事録

(平成29年6月20日(火) 楽友会館 午後4時から6時)

出席 : 藤井義博(藤女子大学)、安宅勝弘(東京工業大学)、守屋達美(北里大学) 吉川弘明(金沢大学)、工藤欣邦(大分大学)、

欠席 : 中村準一(鳥取大学)

総会に引き続き、吉川委員長を議長として開会。議事日程に従って議事を進行した。

議 題

1. 中国四国地方部会小倉俊郎委員の後任として4月より鳥取大学中村準一先生の就任を全員異議なく承認した。
2. 機関誌54(2)の編集等について報告し、全員異議なく了承した。(資料1)
3. 事務局よりISSN登録番号が下記の通り変更となる旨報告があり、全員了承した。
(媒体)CD-ROM 2432-9460 (媒体)オンライン 2432-9479
4. 「CAMPUS HEALTH 55(2)」(平成30年5月発行予定)の特集テーマについて
テーマを「大学が行う多様な学生サポートの試み」とし、各論文の担当者を下記の通りとした。
感染症=潤間先生(千葉大)、メンタル(健康診断におけるチェック)=藤井委員、
禁煙指導・活動=工藤委員、食育・栄養指導=吉川委員、LGBT=守屋委員、
スポーツ選手への支援=久保田委員
担当者は論文執筆者予定者に内諾を得て、8月中に吉川委員長に報告することとした。

5.その他

- ① 症例報告や報告にも要旨、キーワード、Abstractがあった方が読者に有用であるとの提案があり、また、メールでの投稿に統一するため、投稿規定を変更することとし、全員異議なく了承した(別紙1)。
- ② 目次の分類名を「一般投稿論文」から「原著論文」と変更することとした。※54(2)から変更とする。
- ③ 「承諾確認書」に「症例報告」を付け加えることとした。(別紙2)
- ④ 特集原稿用のチェックリストを作成することとした。(別紙3)
- ⑤ web公開となったので、図表のカラー化、また1稿6頁以内の制限にこだわらなくてもいいのではないかの意見があり、編集費用の試算を業者に確認した上、可能な範囲であれば、カラー化やページ数制限を取りやめる方向で検討することとした。
- ⑥ 事務局からの査読依頼(伺い)で、期日(数日)までに返答がない場合は他に依頼することとし、その旨を依頼文に記す(別紙4)。また、他に依頼した場合は、その旨を前依頼者に報告することとした。
- ⑦ 公的な統計や官公庁の資料などURLの取扱いについては、ケースバイケースとして、その都度委員会で検討することとした。

以上

54 (2) 論文集(29.5 発行予定) 掲載論文一覧 (掲載順)

巻頭言

慶應義塾大学 河邊博史

特集 (大学国際化における学生支援) ※掲載順(予定)

- | | | |
|---|----------------|--------|
| 1. 大学の国際化と保健管理 | 岐阜大学 | 山本眞由美 |
| 2. 留学生の健康情報把握と修学支援について | 山形大学 | 富樫整 他 |
| 3. 留学生へのオリエンテーションと健康教育 | 高知大学 | 岩崎泰正 |
| 4. 留学生の日本滞在中のフィジカルヘルス | 政策研究大学院大学 | 鈴木眞理 他 |
| 5. 留学生のメンタルヘルス | 東京工業大学 | 丸谷俊之 他 |
| 6. 留学生を含めたメンタルヘルスのスクリーニング | 北陸先端科学技術大学院大学 | 佐々木恵 |
| 7. 留学生家族に関わる各種社会保障制度 | 岐阜大学 | 西尾彰泰 |
| 8. 大学国際化における学生支援立命館アジア太平洋大学の事例紹介 | 立命館アジア太平洋大学 | 辻井英吾 |
| 9. グローバル化時代の海外渡航前オリエンテーション、健康教育
— 情報収集、各種証明書、常備薬について | 慶應義塾大学 | 横山裕一 他 |
| 10. 日本人大学生の留学中におけるメンタルヘルスについて
- 佐賀大学における現状と対策 - | 佐賀大学 | 佐藤武 他 |
| 11. 海外留学中のフィジカルヘルス | 京都大学 | 小林大介 他 |
| 12. 大学の海外危機対策と医療文化 (現場からの報告) | (株)日本リスクマネジメント | 酒井悦嗣 |
| 13. オレゴン州立大学における健康管理の現状 | 金沢大学 | 足立由美 |
| 14. 包括的なカレッジヘルスプログラムのためのフレームワーク | 金沢大学 | 吉川弘明 |
| 15. 海外留学で注意すべき感染症対策 | 立命館大学 | 中川 克 |
| 16. 大学におけるトラベルクリニックのすすめ | 東京大学 | 柳本伸太郎 |
| 17. 国際連携委員会の取り組みについて—大学の国際化に対応するために— | 岐阜大学 | 山本眞由美 |

(一般投稿論文) ← (原著論文) に変更

- | | | |
|--|--------|---------|
| 1. 学生・教職員を対象とした禁煙外来の取り組みと今後の課題 | 大分大学 | 工藤欣邦 他 |
| 2. 大学生の運動習慣に関する調査研究—プレメディカルケア構想の推進に向けて— | 明海大学 | 杉浦雄策 他 |
| 3. 新入生の健康感・満足度調査と卒業までの退学・休学・留年 | 名寄市立大学 | 大見広樹規 他 |
| 4. 学生の健康診断に対する理解度と受診率—受診率向上を目指して— | 大分大学 | 工藤欣邦 他 |
| 5. 留学生のキャンパス内の精神科受診傾向についての検討 | 徳島大学 | 井崎ゆみ子 他 |
| 6. 大学で実施する PHQ-9 の呼出基準についての考察 | 北海道大学 | 武田弘子 他 |
| 7. 大学における休・退学、留年学生に関する調査 第 3 7 報—平成 2 6 年度分集計結果から— | 茨城大学 | 布施泰子 他 |
| 8. 地方中規模私立大学における障害学生支援体制の構築プロセス | 福井工業大学 | 荒木史代 他 |
| 9. 対処行動エゴグラムを用いた学部新入生のストレス対処行動の実態の検討：影響因との関係 | | |

- 岐阜大学 堀田亮 他
10. 職員の尿中コチニンによる大学敷地内全面禁煙前後の受動喫煙状況の比較
岡山大学 岩崎良章 他
11. 発達障害学生の修学支援に関する教員の認識の変化
-障害学生支援部署設置前後の2回の質問紙調査から- 岩手大学 早坂浩志 他
12. 子宮頸がん予防に関連する葉酸などのリスク因子とその評価 北海道大学 川原由佳子 他
13. 大学生のメンタルヘルスと学生生活支援(2)-学生相談事例集「ほっとCafé」の作成-
東京家政大学 菊池美代子 他
14. ASD 関連困り感尺度の妥当性の検討: 診断の有無による得点の比較
信州大学 高橋知音 他
15. 大学新入生の居場所概念に関する研究-自由記述のテキストマイニング-
東北大学 安達奈緒子 他
16. キャンパス全面禁煙4年後の状況調査 東北大学 工藤成史 他
17. 新入生健診におけるメンタルヘルスチェック尺度の年次比較-3年間の性別、学部別分析-
金沢大学 安達由美 他
18. 全国国立大学大学院学生の病死、事故死の状況について-13年間の調査より-
東京工業大学 丸谷俊之 他
19. 男性看護師のストレス要因の検討-ストレスチェックを利用して-
東京医科歯科大学 久保位可子 他
20. 大学生を対象とした日本の自殺予防研究に関する系統的レビュー 筑波大学 太刀川弘和 他
21. 保健医療福祉系大学生の食品・栄養素摂取状況と課題 防衛医科大学校 坂本めぐみ 他

(症例報告・報告)

1. (症例報告) 学内にて自動体外式除細動器を含めた心肺蘇生法により救命しえた事例
福島大学 小室安宏 他
2. (症例報告) 水田活動後に発症したセルカリア皮膚炎 山形大学 早坂真貴子 他
3. (症例報告) 複合的な支援が有効だった超高機能 ASD 学生の一例 東京大学 綱島三恵 他
4. (報告) 保健医療福祉系学生の食生活と健康生活習慣 埼玉県立大学 鈴木幸子 他
5. (報告) 大学における障害学生修学支援に関する調査報告 広島大学 吉原正治 他
6. (報告) 米国大学保健管理協会年次集会 ACHA2016 の参加報告 岐阜大学 山本真由美 他
7. (報告) カリフォルニア大学デービス校の Student Health & Wellness Center と
Student Disability Center の視察報告の視察報告 岐阜大学 山本真由美 他

以上

(別紙 1)

CAMPUS HEALTH(2) (公益社団法人全国大学保健管理協会機関誌) 投稿規定

(2017年7月改訂)

1. 投稿資格

筆頭執筆者及び corresponding author は、本協会会員とする（第一種会員所属大学の教職員・学生を含む）。ただし、依頼原稿の場合は会員以外でも可とする。

2. 内容

原著については未掲載の論文とする。

編集は原則として特集を中心とし、それに加え、健康管理、医療、教育などに関する論文およびサマリー、所感、トピックス、行事予定・報告、各学会・分野の動向・紹介、追想文、追悼文、健康相談、書評などとする。

3. 論文の受付・受理および掲載

- 1) 原稿は、本協会ホームページにある投稿用フォーマットを使用し、図表、グラフ等もフォーマット中に入力されたもののみ受け付けるものとする。電子原稿を本協会事務局にメールにて添付送信すること。投稿規定の「投稿論文チェックリスト」にチェック、責任者署名を付し、「承諾確認書」に著者全員の署名を付し、原稿送付時に同送すること。
- 2) 対象者などに文書または口頭で同意を得たもの、および著者の所属機関の倫理委員会の承認を得たものは、その旨を方法のところに明記すること。また症例記述については匿名性を最大限に配慮すること。
- 3) 論文掲載の採否は2名以上の査読者の審査結果に基づき編集委員会が決定する。査読者は本会の会員大学の保健管理施設教員および推薦された専門の教員・研究者の中から編集委員会が選定する。
- 4) 論文掲載の採択が本協会から通知されたら、最終原稿を事務局に送付すること。
- 5) 本誌ならびに本協会の採択するインターネットホームページ上に掲載した論文の著作権は本協会に所属する。
- 6) 本誌に掲載した論文の無断転載を禁ずる。

4. 論文の形式

《原著論文》

原則として「要旨」600字以内、「キーワード」5語以内、「はじめに」、「対象と方法」、「結果」、「考察」、「結語」、「文献」の順に記載すること。

英文抄録には「表題」、「著者名」（筆頭筆者については肩書き（Dr.・Prof.・Mr.・Ms）を明記のこと）、「所属および所在地」、「Keywords」（日本語のキーワードに対応する英語）、「Abstract」200語以内をこの順に記載すること。

英文抄録は native speaker によるチェック、もしくはそれに準ずるチェックを受けること。

《原著論文以外》

特に形式を定めないが、要旨、キーワード、英文抄録は原著論文に準ずること。

5. 論文記載の順序・形式

原則として刷り上がり6頁以内とする。

協会ホームページにある投稿用テンプレートを使用し、本文、図表、文献、等を含めた全体で6頁以内とすること。

《表紙》

表題、著者名、ランニングタイトル(25字以内)を記し、下段に所属および所在地、筆頭執筆者または corresponding author の連絡先住所・電話番号・FAX 番号・電子メールアドレスを記すること。

《章、節などの区分》

原則として、右のような形式で記述のこと。【Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・C・1・2・3・a・b・c】

《略語》

略語については、本文中の最初に出たところでフルネームを入れる。専門用語の解説についても同様とする。

《文献》

文献は、引用箇所の右肩に上付きで 1)、2) のように引用順に番号で示し、原稿末尾に下記の形式で番号順にまとめて記載すること。文献数は 20 件以内とする。雑誌の略号は INDEX MEDICUS の表記に従い、それがないものはフルネームで記載する。

著者は 3 名までとし、それ以上の場合は以降を省略し、英文では「et al.」、和文では「他」を付する。

原則として、インターネットホームページは文献として認めない。

(雑誌の場合) 執筆者名. 論文名. 雑誌名 発行年; 巻数: 引用開始頁-終了頁.

Alessandrini P, McRae J, Feman S, et al. Thromboxane biosynthesis and platelet function in type I diabetes mellitus.

N Engl J Med 1988; 319: 208-212.

今井草二, 遠藤真弘. 先天性冠動脈疾患. 呼吸と循環 1973;21:397-409.

(単行本の場合) 著者名. 論文名. In: 書名. 編集者名. 出版社名; 所在地: 発行年. p. 引用開始頁-終了頁.

Abboud CN, Lichtman MA. Structure of the marrow and the hematopoietic microenvironment. In: Williams Hematology 6th ed. edited by Beutler E, Lichtman MA, Coller BS, et al. McGraw-Hill; New York: 2001. p.29-58.

白鳥康史, 小俣政男. ウイルス性慢性肝炎. In: 内科学 第 6 版. 杉本恒明, 小俣政男編. 朝倉書店; 東京: 1995. p. 1036-1039.

《図 (写真)、表》

図、表、写真はそのまま印刷できる鮮明なものに限り、カラー印刷やトレーシングは採用しない。挿入箇所を明瞭に原稿欄外に指示すること。

6. 校正

1) 著者の校正は初校 1 回のみとし、以降は編集委員会において行う。原稿の変更は初校時までとし、軽微にとどめること。

2) 正誤表は、刷り上りの論文が著者の校正と異なる場合のみ、これを作成する。

7. 別刷り

別刷り作成は、特別に用意しない。

8. 原稿はメールに添付のうえ下記アドレスに送信し、提出締切は毎年12月31日(必着)までとする。

投稿された原稿は原則として返却しない。

(原稿送信先 E-mail) juha-adm@umin.ac.jp (担当: 三木)

(別紙 2)

承諾確認書

公益社団法人全国大学保健管理協会機関誌「CAMPUS HEALTH55(2)」に

特集 原著 短報 報告 症例報告 その他

「」

を投稿し、掲載された論文の著作権はすべて公益社団法人全国大学保健管理協会に所属することを承諾いたします。

なお、他誌に掲載または投稿中ではありません。

平成 年 月 日

筆頭者氏名 (自署)

所属名

上記の件につき、同意いたします。

共著者氏名 (自署) (自署)

(自署) (自署)

(自署) (自署)

(自署) (自署)

(自署) (自署)

(自署) (自署)

(自署) (自署)

(自署) (自署)

(自署) (自署)

CAMPUS HEALTH に投稿する会員各位 (別紙 3)

特集論文チェックリスト

投稿前に以下の点をチェックの上、原稿をお送りください。

~~□ 筆頭執筆者及び corresponding author は、本協会会員であるか？ (第一種会員所属大学の教職員・学生を含む依頼原稿の場合は会員以外でも可)。~~

- 原著論文は他誌に未掲載であるか？
- 原稿は、本協会ホームページにある投稿用フォーマットを使用したか？
- 図表、グラフ等も投稿用フォーマット中に入力されているか？
- 投稿規定の「承諾確認書」に著者全員の署名を付し同封したか？

- ~~□ 研究対象者に文書または口頭で同意を得たか？~~
- ~~□ 著者の所属機関の倫理委員会の承認を得た研究に関して、その旨を「方法」に明記したか？~~
- 症例の記述に際しては、匿名性に配慮したか？

《原著論文に関して》

- ~~□ 「要旨」(600字以内)を付け加えたか？~~
- ~~□ 「キーワード」5語以内を付け加えたか？~~
- ~~□ 構成を「はじめに」、「対象と方法」、「結果」、「考察」、「結語」、「文献」の順に配置したか？~~

《英文抄録》

- ~~□ 「表題」、「著者名」を付けたか？~~
- ~~□ 筆頭著者には、肩書き (Dr., Prof., Mr., Ms.) を明記したか？~~
- ~~□ 「所属および所在地」を記載したか？~~
- ~~□ 「Keywords」(日本語のキーワードに対応する英語)を付けたか？~~
- ~~□ 英文抄録は200語以内となっているか？~~
- ~~□ Native speaker 等による英文校正を受けたか？~~

~~□ 論文は投稿用テンプレートを使用して、本文、図表、文献、英文抄録などを含め、全体で6頁以内になっているか？~~

《表紙》

- 表題、著者名、ランニングタイトル (25字以内) を記したか？
- 下段に所属および所在地、筆頭執筆者または corresponding author の連絡先住所、電話番号、FAX 番号、電子メールアドレスを記したか？

《章、節などの区分》

- 次の原則に従っているか？ 【I. II. III・A. B. C・1. 2. 3・a. b. c】

《略語》

- 略語については、本文中の最初に出たところでフルネームを入れたか？ (専門用語の解説についても同様とする。)

《文献》

- 以下の決まりを守っているか？
引用箇所の上肩に上付きで、1)、2)のように引用順に番号で示し、原稿末尾に下記の形式で番号順にまとめて記載すること。文献数は20件以内とする。雑誌の略号は INDEX MEDICUS の表記に従い、それがないものはフルネームで記載する。
著者は3名までとし、それ以上の場合は以降を省略し、英文では「et al.」、和文では「他」を付する。
原則として、インターネットホームページは文献として認めない。

《図(写真)、表》

- 以下の決まりを守っているか？
図、表、写真はそのまま印刷できる鮮明なものに限り、カラー印刷やトレーシングは採用しない。挿入箇所を明瞭に原稿欄外に指示する。

責任著者 署 (自署) : _____

日付 (西暦) : _____ 年 _____ 月 _____ 日

査読依頼(伺い)メール文

(別紙 4)

評議員

先生

公益社団法人全国大学保健管理協会
機関誌編集委員会委員長 吉川 弘明

CAMPUS HEALTH (2)一般投稿論文原稿の査読について(依頼)

明年5月末発行予定の協会機関誌 CAMPUS HEALTH (2)に投稿されました下記論文の査読をお願いいたしたく、お伺いいたします。

お忙しい中ご無理をお願いし、恐縮に存じますが、何とぞご協力のほどお願いいたします。

つきましては、○月○日までに、査読の諾否のご連絡をお願いいたします。

ご承引のご連絡をいただきましたら、メールにて原稿等をお送りします。

※期日を過ぎてご返答がない場合は、他の方に査読を依頼いたしますので、ご了承ください。

また、貴施設の他の先生方でこの論文の査読適任者がおられましたら、ご紹介いただいても結構です。

お名前、所属、メールアドレスをお知らせいただきましたら、当方より依頼いたします。

なお、査読期限は原稿送信時にお知らせ致しますが、通常原稿送信後2週間程度とさせていただきます。

記

表題「 」

要旨: